

～景観に配慮した協働のまちづくり～ の結果

1 開催目的

「安全で安心して住めるまち」、「元気に楽しく暮らせるまち」、「地域の魅力を活かしたまち」。地域の皆さんが進めるまちづくりには、様々な思いが込められています。

まちづくりは、地域の皆さんが主体となり、自治会、まちづくり団体や商工等の団体、行政などが連携・協働することで、より大きな効果を発揮します。

今回、地域の特性を生かした「景観配慮」をテーマに、基調講演や、道路等の整備や景観形成などの協働のまちづくりを实践されている方からの活動紹介を通じ、協働によるまちづくりについて、皆さんとともに考えます。

2 プログラム

13:00 開会

あいさつ (県土整備部 渡辺克己次長)

13:10～ 第1部 基調講演

『協働と交流のまちづくり』

講師：市村 良三氏

(長野県 小布施町長)

14:00～ 第2部 活動紹介&交流会

《協働によるまちづくり活動の紹介》14:00～14:50

① 景観まちづくりプロジェクト事業

三重県県土整備部景観まちづくり課

② 誇りづくりを目指したまちづくり事例

山本 武士氏 (伊勢市本町 外宮参道発展会 会長)

③ 世界遺産とまちなかを結ぶ活動事例

田上 至氏 (紀北町海山区 交流空間みやま 会長)

《交流会》15:00～16:40

参加者が7班に分かれ、以下のテーマについてディスカッション。

「基調講演でもう少し聴きたかったこと」

「基調講演等で自分の活動に活かしたいこと」

【コーディネーター】

加藤 武志氏 (まち楽房有限公司 代表取締役)

【コメンテーター】

市村 良三氏 (長野県 小布施町長)

浅野 聡氏 (三重大学大学院工学研究科 准教授)

3 実施内容

(1) 基調講演

『協働と交流のまちづくり』講師：市村 良三氏（長野県 小布施町長）

・小布施町の概要

人口：約 11,500 人

面積：19.07 km²（長野県で一番小さな町）松川（pH4）の扇状地に位置

江戸時代後期、千曲川の船運と整備された街道を利用した流通が盛んになり、北信濃の経済、文化の中心として栄える。

・まちづくりの第1ステージ（まちづくりの経緯）5つのポイント

人口政策…昭和40年代 人口減少（高度経済成長により都市部へ人口流出）

果樹を中心とした農業立町（米が生産できない環境のため、昔から付加価値型・広域型の農業）

文化遺産を活かした文化立町（高井鴻山、葛飾北斎）

北斎館の建設…町民意識の喚起、研究、集客

地場産業…栗菓子の小売・飲食サービスを開始（製造から販売まで気持ちはひとつ）

問題意識を個々（店舗づくり）から全体の景観へ転換

それぞれがファン作りに取り組んだ

町並修景事業…景観に対する町民意識の向上、条例の制定、景観賞の制定

補助金はもらわず、前例にとらわれない取組（マスタープラン作成、ゾーニングしない）

個人が取組みやすい仕組みづくり

花のまちづくり…街並修景事業で、景観を意識した町民が花によるまちづくりを展開

ヨーロッパへ花のまちづくり研修（ふるさと創生事業の一部で人材育成）

オープンガーデンが130軒に拡大（全3,500戸の1割を目指している）

葛飾北斎が描いた「巴錦（菊の一種）」を町中に咲かせる活動



情報発信 知名度が高まり、来訪者増加

・まちづくりの第2ステージ（2つの急務と2つの旗印）

財政の健全化・**行政改革**…町の急務

4つの協働…町民との協働（まちとしょテラソ）、地場産業との協働（ブランド化）

町外企業との協働（まちづくりを共に実施）、研究機関との協働

交流…交流≠観光

来訪者数・利益増を目指しているのではなく、来訪者と会話を何度もすることで信頼関係を築くことを重視しているため「交流」を旗印としている。

自立…小布施町の強みを生かす

高い町民力、合併時の16村の歴史文化の違い、保全された農村景観と暮らし、町域面積の小ささ、六次産業・地産地消、来訪者の求める町の雰囲気がある

・まちづくりの第3ステージへ（若者の流れを作る）

小布施町では、次の世代が育ってきているが、それだけでは町のことしかわからないので、外からの知恵が必要であり、若者を外から招く仕組みに挑戦している。

小布施若者会議…未来を担う若者が全国から小布施町に集結し、小布施町の若者と全国の若者が洗練されたプログラムにより3日間徹底的に議論

サマースクール…ハーバード大学をはじめとする海外大学生による少人数授業

基調講演の様子 市村町長



(2) 活動紹介

① 景観まちづくりプロジェクト事業

三重県県土整備部景観まちづくり課

- ・みえ県民力ビジョンにおける協働・協創について説明
- ・景観まちづくりプロジェクト事業の概要説明を行い、地域住民と行政の関わり方や県内の官民協働による修景整備の取組み事例を紹介

② 誇りづくりを目指したまちづくり事例

山本 武士氏（伊勢市本町 外宮参道発展会 会長）

- ・外宮参道にある外宮参道発展会という商店会組織が、平成15年に立ち上げたまちづくり活動に特化した団体であり、ソフト事業を中心に活動している。
- ・何のための活動なのかを評価するために、まず思いを明文化し、自分たちが外宮とは何かを知ることから始めた。（外宮さんのこと講演会）
- ・外宮さんちびっこ博士グランプリ、緑化活動（花によるおもてなし）、外宮参道ギャラリー、献灯のリニューアル（伊勢和紙使用）などの取組を行っている。

- ・廃品回収の実施により、予算を確保している。
仕事をしている方でも参加しやすい取組であるため、参加者意識が芽生える。
- ・ひだまり処（観光案内所）の設置→観光交流拠点「菊一」の設立
- ・動く景観を形成「神楽月外宮さん参り（着物を着て歩く）」
- ・外宮とは何かを正しく発信し、外宮と関わる人（交流）を増やし、おもてなしの活動を中心に「外宮ファン」を増やす取組を進めていきたい。

③ 世界遺産とまちなかを結ぶ活動事例

田上 至氏（紀北町海山区 交流空間みやま 会長）

- ・三重県の東紀州地域交流空間創造事業を活用し、平成16年に「馬越峠・海山部会」として活動を開始し、平成18年に事業が終了するも、会員の意志により活動の継続を選択し、「交流空間みやま」に名称を改め活動を継続している。
- ・『石畳の馬越峠から「海・山・川」の魅力広がる権兵衛のふるさとへ招く交流空間づくり』をテーマに、世界遺産熊野古道に登録された峠道だけでなく、まちなかを歩いてもらう活動を展開している。

川舟部会…昔旅人は、旅の途中で川を渡る必要がありその風景を再現。

三重大学の協力を得て古文書から当時の川舟について調べ、熊野川の三反帆の船大工により川舟を制作した。

桜部会…来訪者の憩い場となるよう桜の植樹、育樹を行っている。

イオンリテールの協力で活動を継続している。

ほたる部会…三重県と協力し、蛍が住みやすい環境づくりを行っている。

熊野古道・観光部会…特定外来生物オオキンケイギクの駆除を行い、銚子川の景観の保全を行っている。

銚子川流域提案部会…銚子川付近の看板清掃を行い、来訪者をもてなす活動地域が川を大切にしていることを伝え、利用者のマナーアップを図っている。

- ・交流空間みやまの特徴

各分野で活躍しているメンバーの集まりのため協力体制が整っていること。

情報共有の早さや行動力があること。

- ・官民協働を進めるポイントは、仲間意識をもつこと。（同じ目標に向かって走る。）
- ・まちづくりには、「若者」「ばか者（＝郷土愛）」「よそ者（＝外の意見）」が重要。

活動紹介の様子

外宮参道発展会 山本会長



交流空間みやま 田上会長



(3) 交流会

まち楽房有限会社 加藤 武志代表取締役によるコーディネートのもと、参加者が7班に分かれ、「基調講演でもう少し聴きたかったこと」について付箋に書き出し、討議を行いホワイトボードに貼り出しました。その後、グループを変えて「基調講演等で自分の活動に活かしたいこと」について同じように討議を行いました。

交流会の様子



(参加者の主な意見)

もう少し聴きたかったこと

- ・豊かな田園風景や花づくりで獣害などの被害はないのか？
- ・小布施若者会議について、もっと知りたい。
- ・リーダーがない場合どうしたらよいのか？
- ・地元の若者がまちづくりに参加してくれるための工夫は？

自分たちの活動に活かせること

- ・後継者の育成、若者の流れを作ること。
- ・まちづくりの発想を参考にしたい。
- ・地域資源を磨くこと。

コメンテーターから次のコメントをいただきました。

(市村町長)

- ・小布施町に関して言えば、獣の侵入経路となる里山に接する場所に、若者が集まる場所ができたため、被害はあまり問題となっていない。
- ・小布施町では、次世代のリーダーが着々と育っている。年配者が譲らないと次世代は育たないので、年配者が若者の応援をすることが大事である。
偉い人間は誰もいないが、誰にも偉い瞬間がある。
プロジェクト毎にリーダーを変え、それぞれが主役を一回は経験することが大切である。
- ・外の力が必要である。外部の意見には発想力があるが、その一方で、当事者意識が欠け無責任なところがあるため、内部では外部を排除しようという流れになりがちである。外部との融合が大切であるため、年配者こそがその役目を果たすべきである。
小布施町では、大学の研究機関が3つあるが、それぞれで競ってもらうことで当事者意識を持ってもらう工夫をしている。
- ・地域間交流も大切であるが、世代間交流にも目を向けてもらいたい。

(浅野准教授)

- ・外宮参道発展会の取組の中で、地元住民でも外宮について正しく説明できる人が少ないことから、まず勉強を始めた。勉強した延長上に活動があることは非常に大切である。これは、他の活動団体においても参考にすることができるのではないのでしょうか。
- ・三重県内の世界遺産熊野古道は、和歌山県側の熊野三山とは違い峠部分である。交流空間みやまの取組「世界遺産とまちなかを結ぶ」活動は、世界遺産登録されていない部分も熊野古道であり、そこをいかにPRし地域を盛り上げるのかという問題意識は非常に共感できるため、今後の活動も期待している。
- ・まちづくりには、「計画性と継続性」「徹底した地域性にこだわること」「人づくり」が大事ということを改めて認識した。

最後にコーディネーターから本日の交流会のまとめをしていただきました。

①ないからある…ないものを探すのではなく、あるものを活かす。

②かたちにする…できることから始め、目に見えるもの（かたち）にすることで
周りの意識を変えていくことにつながる。

③まきこむ …周りを巻き込むことで、一人一人が当事者意識を持つことが大事。

- ・お気づきの方いらっしゃいますか？①②③の頭文字を取ると「なかま」となります。
おあとがよろしいようで。

